

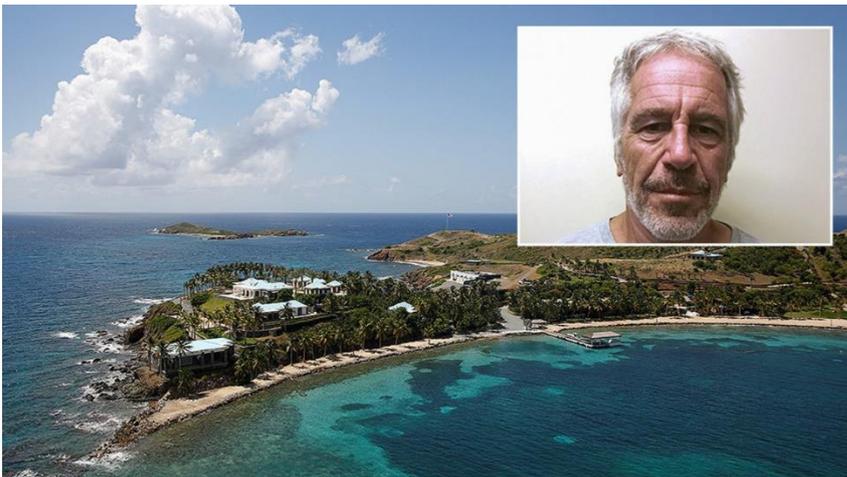
## エプスティーンは常識の通らない魔界の人：他にどれだけジ

### ェフがいるか？

【訳者注】「病巣」という言葉がある。この署名入りの RT 記事は、ジェフリー・エプスティーンという希代の悪人を通して、墮落したアメリカの病巣の深さをよく伝えている。これは下々の悪人のことではない。国家指導者としての最高権力者と、その意に従うメディアを合わせた社会のことである。「魔界」と訳したのは netherworld だが、この異常な、魔に取りつかれたような世界を意味する語として、最も適切だと思う。著者は、同じ性犯罪者でも、エプスティーンと、(ハリウッドの) ハーヴィー・ワインスタインは違うと言っている。後者は魔界の人ではない。ここがポイントである。私は、アメリカで起こっているこの問題は、「純粹悪」「悪そのもの」という観点がなければ理解できないと、ずっと言ってきた。エプスティーンには、自分のやっていることに対する「悪」の観念が、ほとんどないように思える。彼を保護する周囲の政治家やメディアもそうである。これを読めば、彼らの動機が、性欲のためでも、儲けるためでもないことがわかる。むしろ宗教的動機であろう。だからこそ、彼の島に聖堂？があるのだろう。これが最も恐ろしい。

RT News

August 15, 2019



彼がどのような死んだのかはともかく、ほんとうに不思議なのは、ジェフリー・エプステーンがどのように生きたのかである——普通なら投獄されるはずの罪を犯しながら、世界で最も注目される人たちの隣にいた。彼は自分の周囲に、どうやって護身の泡を作り出していたのだろうか？

例えば、エプステーンの生涯の財政、つまり、これほど多くの彼の犯罪活動の財源はどうなっていたのだろうか？

彼の顧客を歓待するための財産を蓄える方法について、ウォール街では、何年も前から疑いが出回っていたものの、その期間中、彼はずっと額面通りに、金融業者・億万長者として通っていた。

過去数か月前から、我々は、彼が億万長者ではない可能性があることを発見していた。  
<https://www.forbes.com/sites/noahkirsch/2019/07/08/why-sex-offender-jeffrey-epstein-is-not-a-billionaire/#6bcfcdde15c7> しかも、いったい彼が合法的なビジネス活動をしているのかどうか、あるいは彼のカネの出所がどこかさえ、誰も知る者がいないのである。

**RT 関連記事：「ペド犯罪者 J・エプステーンの財産の行方は、彼の死後、謎に包まれている」** <https://www.rt.com/business/466458-jeffrey-epstein-fortune-mystery/>

とはいえ、そこには明らかに巨額のカネが関わっており、その証拠として、見たところ説明できない数百万ドルの取引が、オフショアの口座ネットワークを通じて行われ、彼の積み上げた正真正銘の贅沢品がある。  
<https://www.nytimes.com/2019/08/11/business/jeffrey-epstein-finances.html>

しかし、アメリカが、世界の最も侵略的な金融犯罪者を、国境の外側で自由に振舞わせているという評判があったにもかかわらず、エプステーンは決して告発されたこともなく、十分に調べられたことさえなかった。一方、世界の最も信用ある銀行たちが、過去数か月前までは、彼との取引を喜んで継続していた。

<https://www.nytimes.com/2019/08/11/business/jeffrey-epstein-finances.html>

それ以上に呆れるのは、彼が罰せられずに性犯罪を続けていた、その規模の大きさである。

これは、比較的常識的な、(ハリウッドの) ハーヴィー・ワインスタインのような性犯罪者とは違っていた。ワインスタインの方は、彼が権力を利用し、大人の女性からホテルなどで性的な好意を求めるものだった。

それとは違って、エプステーンは、国際的なセックス集団のオペレーターであり、何百人もの未成年の「奴隷」を、学校やショッピング街から拾い出し、互いに知り合った状態で、国境を越え、多くの傍観者がいるに違いない所を移動するものだった。

しかし、エプステーンは、彼がこれをやり始めてから、おそらく数十年後に、初めて捕まり、悪名高い寛容な処罰を言い渡され、彼のライフスタイルの継続を許されたと言われ、訴訟を退けている。

この間ずっと、この有罪の性犯罪者は、メディアから、奇妙な放任主義的な寛容さをもって遇された。それがやがて魔術のように働き始め、いくつかの執拗な地方ジャーナリズムを除いては、エプステーンとは本当は誰かという根本を尋ねることさえ、誰もしなくなったようである。

エプステーンは実物より大きな人間ではなかったにもかかわらず、かつて世界で最も権力をもった男と、同じ地位を狙う彼の妻との、親密な交流の事実は——アンドルー王子やウッディ・アレンのことは言わないとして——野心をもつ調査担当者にとっては、宝物の発見であったはずである。

確かに、主張されていることのいくつかは、証明が難しいかもしれず、ジャーナリストは「ロリータ急行」と呼ばれるものの中身まで、詮索することは期待されていない。しかし、少なくとも 2005 年以來、ある物語を構築するだけの、確かな根拠は存在している。たった一つの #MeToo の記事が、人の生涯を破壊することもできる世界で、エプステーンは、地に墮ちたギャツビーのように甘やかされ、NY タイムズの記者には一目置かれ、モハメド・ビン・サルマンとのつながりを誇示していた。

<https://www.nytimes.com/2019/08/12/business/jeffrey-epstein-interview.html>

多くの人にとって、いま最大の誘惑は、このことを一つの陰謀として片づけることである：——エプスティーンは、クリントン夫妻とのつながりのために、保護された男だった。彼は、CIA やモサドのフロントでありフィクサーだった。誰でも彼と関わった者は——調査官や検察官からジャーナリストまで——金銭によって懐柔され、おそらく恐喝されていたのだ。

**RT 関連記事：「ロシア人がエプスティーンを殺したのだ。みんな家に帰れ、アレック・ボールドウィンが関わっている」** <https://www.rt.com/news/466415-alec-baldwin-epstein-conspiracy-russians/>

アレック・ボールドウィンを除いたすべての者たちが、きっとここで一息つくだろう。そして、もっと多くの事実が現れることを期待するだろう。しかし私にとっては、おそらくもっと恐ろしい発見は、いわゆる陰謀はなかったということである。

これは単に、エプスティーンの富と「つながり」からくる権力によって、更には国際的なライフスタイルを続けられたことによって、この男が、通常で合法的な、社会的規制の及ぶ場所から遠ざけられたということであろう。

我々はすでに、富豪や政界のエリートや有名人は、異なったルールによって生きているものと想定している。しかし、ここで対象になっているのは、通常の金持ちの贅沢——ヨット、執事、ロンドンの地下プール——ではない。

**RT 関連記事：「ジェフリー・エプスティーンは、彼の DNA を人類に植え付けようとした：科学者の主張」** <https://www.rt.com/usa/465517-epstein-seed-dna-scientists-eugenics/>

これは悪漢のレベルに堕ちたジェームズ・ボンドである——秘密の寺院をもつプライベートな島、何百人という女性に彼の DNA を植え付ける計画、トップ科学者を巻き込んで、新しい人類を作り出そうとする計画・・・

もし我々が、エプスティーンに興味は、幼い女の子を手なづけることでなく、ホームレスを集めて、ここへ連れてくることだと聞かされたら、我々の驚き方は同じだろうか？ それを見つからずこっそりやるのは、それほど難しいことではないのではなかろうか？



ドローンの撮影した、エプスティーン島の「寺院」の写真

我々は自分に向って、ジェフリー・エプスティーンは例外的人間で、特別にずる賢く、墮落したサイコパスであり、正しい「つながり」をもった存在だった、ということもできる。しかしそれとは逆に、この富裕で、グローバルで、無法者の魔界には、他の墮落した無法者で、それほど名声を望まないが、実はもっと危険な意図をもつ者たちが隠れているのではないかと、考えることもできる。

我々のなすべきことは、彼らが沢山の犠牲者を残してニューヨークの刑務所で死ぬ前に、今、彼らの行動をやめさせることである。

By Igor Ogorodnev

PDF: